

# PTA 活動に対する母親たちの 態度の多様性<sup>1</sup>

有馬明恵・下島裕美・竹下美穂

## 問題

日本の PTA は、民主主義教育を推進するために GHQ の要請により第二次世界大戦後に設立されたものであり、児童生徒の保護者が教員と学び合うことで教養を高め、その成果を家庭・学校・地域へ還元することを目的としている。つまり、保護者は教員と対等な立場で学び、学校教育の場だけではなく、子どもの成長にとって重要な家庭と地域においても子どもたちを教育することが求められているのである。PTA には、家庭・学校・地域が三位一体となって地域の子供たちを育む中心的役割を果たすことが期待されていると言っても過言ではない。しかし、PTA（活動）に関する学術的な研究蓄積は少なく、その教育効果、地域社会への波及効果などの正の側面や PTA 活動のメカニズムなどについては、ほとんど知られていない。しかし、2000 年代になると新聞などのメディアにおいては、自動入会の問題、役員選出の問題をはじめ PTA に関する否定的な言説が語られるようになった<sup>2</sup>。

そもそも PTA に関する研究のほとんどは、教育学や教育行政の視点からなされたものであり、PTA の歴史的経緯・変遷（藤田，1984；天野，2001 など）、活動の実態（杉村，1968 など）、役員の意識（住田・藤井，2000 など）、単位 PTA の新たな取り組みに関する事例研究（石田，2015）に大別される。

---

<sup>1</sup> 東京女子大学女性学研究所プロジェクト研究（2014～2016 年度）の助成により行われた研究の一部である。

<sup>2</sup> 朝日新聞では 2012 年 5 月～2013 年 3 月まで「どうする？」と題して PTA の会費、上部団体、改革などの問題が取り上げられた。

また、メディアにおいて PTA の問題がクローズアップされるようになると、PTA 入会手続きの法的解釈（星野，2016 など）、シンポジウムの開催（竹尾・戸田，2015; Takeo & Omi, 2016 など）などにみられるように、様々な学問分野の研究者たちが PTA 問題に関して文化、ジェンダー、法律などの視点からの解釈を試みている。

PTA 役員、その中でも副会長以下の活動の実働を担うのは母親がほとんどであることは、広く知られていることである。しかも役員である母親たちと教員が共に知恵を出し合い新たな活動を子供たちに還元することはほとんどなく、母親たちは毎年決まって開催される行事や多忙な教員を助けるべく教員たちの下働きに徹することが多いといわれている。これがいわゆる「学校の嫁」批判であり、母親たちの PTA 活動は負の文脈で語られているのである。実際、母親たちが PTA 役員を引き受けるのは「じゃんけん」や「くじ引き」「順番」といった外発的動機付けによるものなのだろうか。母親たちは PTA 活動について学校の下働きをすればよいといった消極的な考えで取り組んでいるのだろうか。あるいは PTA がすべき活動について積極的な意見を持っていないのだろうか。PTA 活動が自己を成長させることはないのだろうか。中山（2015）は、10 歳から 15 歳の子どもの母親で PTA 活動の経験のある 120 名を対象に Web 調査を行い、次のような PTA 活動の持つ効果を明らかにしている。すなわち、母親たちは自分が行った PTA 活動が役に立つと感じ、活動を通して人間関係が広がったことを実感し、自己評価が高まると、その後も PTA 活動に参加したいと思うのである。また、そうした PTA 活動による母親たちの内面の変化はボランティア活動や地域の活動への参加を促進するのである。さらに中山（2015）は、PTA 活動へ従事することによるこうした正の変化は、PTA 活動での負担を重く感じている人たちにおいてより顕著であることを示している。

本稿では、公立小学校での PTA 役員経験のある母親を対象に調査を行い、母親たちの PTA 活動に対する考え方を類型化することを試みる。なぜなら、今日の母親たちのライフスタイル、キャリア志向は多様化しており、そのこ

どが PTA 役員の選出や活動の停滞を招いているとの指摘があるからである。PTA 活動に対する考え方を類型化することができれば、母親たちが PTA 活動においてどのように多様化しているのかを示すことができる。多様化している母親たちのどのような点が PTA 活動に求められていることや PTA 活動の実態と相容れないのかを示すことにより、今後の PTA 活動のあり方や母親たちに PTA 活動への参加をどのように働きかければよいかを考えるヒントを得られるだろう。

## 方法

**調査協力者** (株)マーシュのモニターのうち次の条件を満たす母親 450 名 ( $M=41.54$  歳,  $SD=4.54$ )。モニターの条件は、調査時に東京都在住で公立小学校(国立を除く)で PTA 役員を一年以上経験したことがあり、長子が小学 2~6 年生に在学中の者。調査協力者の小学生の子供の数は 1 人が 268 名 (59.6%)、2 人が 172 名 (38.2%)、3 人が 10 名 (2.2%) であった。

経験したことのある PTA の役職は、PTA 会長や書記などの執行部や部長・委員長、副部長・副委員長以外が半数以上であり、複数回役員を引き受けたことのある人が約 3 割であった。

**手続き** Web 調査を行った。モニターは個別に Web サイトにアクセスし、研究に関する説明に同意した上で、それぞれのペースで回答した。

**質問項目** 以下の 12 に大別される。

**PTA 役員の経験** 年間を通じて就任したことのある PTA の役職について回数も含め答えてもらった。また、直近の PTA 役職時における出校回数については、「週 2 回以上」~「2 ヶ月に 1 回」「それ以下」の 6 つの選択肢の中から 1 つ選択してもらった。

**PTA 役員を引き受けた理由** 「子どもの友達のお母さんと親しくなりたいから」「学校の様子を知りたいから」「くじで当たったから/じゃんけんて負けたから」などの 15 の理由について、それぞれ「まったく当てはまらない」~「非常に当てはまる」の 5 件法で回答してもらった。

PTA 役員を引き受けたくない（引き受けられない）理由 PTA 役員を引き受ける前と役員を経験した後について、「拘束される時間が長い」「活動の進め方が効率的でない」「家族の理解と協力が得られない」などの 13 項目をそれぞれ「まったくそう思わなかった（い）」～「非常にそう思った（う）」の 5 件法で回答してもらった。

PTA の活動の必要性 「PTA 便り（運営委員会の内容を会員に報告するお便り）の作成（と配布）」「通学区域のパトロールや安全調査をする」「廃品回収をする」などの 23 の活動について、それぞれ「まったく必要ない」～「非常に必要である」の 5 件法で回答してもらった。

PTA 役員経験による自身の変化 「担任の先生と接触する機会が増えた」「授業参観に行くようになった」「自分の能力の（再）発見をした」などの 28 項目について、それぞれ「はい」「いいえ」の 2 件法で回答してもらった。

PTA 任期終了後にやりたかったこと 「習い事」「自治体が募集する審議会などの委員」などの 8 項目について、それぞれ「全くそう思わなかった」～「非常にそう思った」の 5 件法で回答してもらった。

PTA と小学校の関係 実際の関係については、「校長先生や副校長先生は PTA の意見を汲み上げる努力をする」「学校側に PTA の意見を言にくい」などの 7 項目について、それぞれ「まったく当てはまらない」～「非常に当てはまる」の 5 件法で回答してもらった。理想的な関係については、「PTA は学校からお願いされたお手伝いを忠実にやるべき」「PTA は学校から家庭教育について教えてもらうべき」などの 10 項目について、「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の 5 件法で回答してもらった。

PTA に対する意見 「PTA 活動は母親が担うべき」「PTA の存在・活動は子どもの健やかな成長に役立つ」などの 5 項目について「まったくそう思わない」～「非常にそう思う」の 5 件法で回答してもらった。また、今後の PTA 活動については、「このまま存続すべき」「活動内容を検討すべき」「活動の進め方を検討すべき」「全くなくすべき」「わからない、考えたことがない」の 5 つの選択肢の中から、最も近い考えを 1 つ選択してもらった。さらに、

PTA について考えていることを 500 字以内で自由に記述してもらった。

PTA の役職にふさわしい性別 「PTA 会長」「広報活動」「クラス懇談会の開催」など 14 の役職や任務について、「どちらかといえば父親」「どちらかといえば母親」「どちらでもよい」の 3 つの選択肢の中からそれぞれ 1 つずつ選択してもらった。

PTA の退会意図 「ある」「ない」の 2 択で尋ねた。

性役割観 鈴木（1991）の SESRA-S により測定した。

フェイスシート

年齢、婚姻状況、雇用形態、職業、一週間当たりの労働日数と時間、同居家族

## 結果

### 1. 尺度の検討

「PTA 役員を引き受けた理由」「PTA がやるべき活動」「PTA 役員経験前に考えていた引き受けたくない理由」「PTA 役員経験後に考える引き受けたくない理由」「役員経験による自身の変化」「PTA 役員終了後にやりたかったこと」「小学校と PTA の現実の関係」「小学校と PTA の理想的な関係」「父親と母親にふさわしい役職・活動」「PTA 活動に対する意見」について、因子分析を行い尺度の構成を検討した。

まず、PTA 役員を引き受けた理由については、「卒業までに一度は引き受けなければならなかったから」の平均値は 4.34 (SD=1.14) と突出して高かった。役員を引き受ける最大の理由は、暗黙であるか否かに関わらずこの「公平」という価値観（竹尾・神野，2016）であるといえる。また、この項目も含めた 15 の項目について因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行ったところ、「卒業までに一度は引き受けなければならなかったから」の因子負荷量は、いずれの因子においても小さかったため、この項目を除き再度因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行った。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第 1 因子から順に「情報入手目的」「自己充実目

的」「消極的理由」と呼ぶことにした（表1 参照）。

PTA の活動の必要性については、「PTA 総会の資料作成」「通学区域内のパトロールや安全調査をする」などの23項目について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、4つの因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「資金・労働力提供」「基幹業務」「対外活動・成人会員啓蒙」「安全活動」と命名した（表2 参照）。

PTA 役員を引き受けたくない理由については、役員を引き受ける前と後について「拘束される時間が長い」「学校に行く回数が多い」「活動の進め方が効率的でない」などの同一の13項目で尋ねた。役員を経験する前の回答について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、3つ

表1 PTA 役員を引き受けた理由（主因子法・バリマックス回転）

	因子負荷量			共通性
	I	II	III	
情報入手目的				
学校の様子を知りたかったから	<b>.856</b>	.148	-.129	.772
子供に関することを知りたかったから	<b>.827</b>	.185	-.015	.719
地域の情報を得たかったから	<b>.779</b>	.349	.066	.733
子供の友達のお母さんと親しくなりたかったから	<b>.716</b>	.301	-.017	.604
担任の先生と親しくなりたかったから	<b>.707</b>	.309	.156	.620
自己充実目的				
自分の能力やスキルを高めたかったから	.303	<b>.830</b>	.137	.800
社会貢献をしたかったから	.402	<b>.692</b>	-.006	.641
家族に勧められたから	.087	<b>.592</b>	.533	.643
子供の教育環境を良くしたかったから	.469	<b>.577</b>	.098	.562
名誉職だから	.239	<b>.554</b>	.365	.497
仲の良い友達と一緒にやりたかったから	.160	<b>.423</b>	.142	.225
消極的理由				
くじで当たったから／じゃんけんで負けたから	-.061	.058	<b>.561</b>	.322
順番だから	-.044	.056	<b>.522</b>	.278
説得されたから	.134	.295	<b>.406</b>	.270
固有値	3.625	2.796	1.264	
寄与率 (%)	25.89	19.97	9.03	

表2 PTA活動の必要性（主因子法・プロマックス回転）

	因子負荷量				共通性
	I	II	III	IV	
資金・労働力提供					
バザーの開催	<b>.904</b>	.019	-.130	-.106	.578
廃品回収	<b>.884</b>	.007	-.149	-.093	.534
校内パトロール	<b>.552</b>	-.221	.087	.196	.463
校内の美化活動	<b>.525</b>	-.037	.025	.206	.455
ベルマーク集計	<b>.508</b>	.101	.209	-.118	.438
地域行事への参加・手伝い	<b>.483</b>	.224	.080	.055	.513
講演会の主催	<b>.444</b>	-.062	.324	-.035	.446
授業補助・校外学習の付き合い	<b>.365</b>	.056	.184	.203	.487
基幹業務					
総会資料の作成	-.020	<b>.979</b>	-.056	-.007	.883
総会運営	-.018	<b>.936</b>	.003	-.034	.841
PTA 便りの作成・配布	-.060	<b>.880</b>	-.028	.059	.750
学校行事の手伝い	.197	<b>.373</b>	.135	.122	.456
広報誌の編集・発行	.131	<b>.320</b>	.224	.035	.353
対外活動・成人会員啓蒙					
PTA 会費で教育環境の改善	-.029	-.205	<b>.933</b>	-.013	.659
慶弔金の支出	-.047	.037	<b>.767</b>	-.086	.497
卒業記念品を会費で負担	-.131	.083	<b>.742</b>	-.003	.483
P 連・P 協参加	.092	.163	<b>.674</b>	-.087	.628
教育委員会へ要望書を提出	.036	.068	<b>.619</b>	.014	.482
学級懇談会の開催	.255	-.090	<b>.312</b>	.115	.324
安全活動					
交通安全週間の安全登校	-.048	.045	-.132	<b>.955</b>	.764
毎日交代で通学路に立つ	.021	-.031	-.129	<b>.910</b>	.706
通学区域の安全調査・パトロール	-.139	.103	.192	<b>.701</b>	.630
交通安全教室の開催	.162	-.060	.234	<b>.448</b>	.511
	I	—	.433	.748	.619
	II	—	.539	.421	
	III		—	.599	
	IV			—	

の因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「時間的理由」「個人的な理由」「対人的な理由」と命名した（表3参照）。

役員を経験した後の回答についても因子分析（主因子法・プロマックス回

表3 PTA 役員経験前の引き受けたくない理由（主因子法・プロマックス回転）

	因子負荷量			共通性
	I	II	III	
時間的理由				
拘束される時間が長い	<b>.965</b>	-.083	-.132	.718
学校に行く回数が多い	<b>.900</b>	-.199	-.069	.595
活動や活動時間に予定を合わせるのが難しい	<b>.753</b>	.028	.007	.598
活動の進め方が効率的でない	<b>.660</b>	.030	.001	.459
PTA の活動内容に疑問を持つ	<b>.463</b>	.170	.150	.474
PTA 活動が自分の仕事に支障をきたす	<b>.431</b>	.315	.039	.474
個人的な理由				
PTA 活動が家族の介護に支障をきたす	-.134	<b>.942</b>	-.200	.597
PTA 活動が自分の健康維持や病気の治療に支障をきたす	-.077	<b>.893</b>	-.065	.662
家族の理解と協力が得られない	-.014	<b>.644</b>	.060	.458
PTA 活動が子どもの世話に支障をきたす	.161	<b>.571</b>	.122	.584
対人的な理由				
人前で話すのが苦手である	-.116	-.162	<b>.799</b>	.413
他の親や先生たちとうまくやっていくのが大変	-.027	-.007	<b>.780</b>	.575
家族の用事や家族と過ごす時間に支障をきたす	.250	.311	<b>.352</b>	.622
	I	—	.554	.640
因子相関	II	—	.644	
	III		—	

転)を行ったところ、「人前で話すのが苦手である」「PTA 活動が自分の仕事に支障をきたす」の2項目において因子負荷量が低かった。そこで、それら2項目を除き再度因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、2つの因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「個人的な理由」「時間的理由」と命名した（表4参照）。

役員経験による自身の変化については、「学校での自分の子どもの様子がよくわかるようになった」「顔と名前がわかるお子さんが増えた」「校長先生・副校長（教頭）先生と話す機会を持てた」などの28項目について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、「知り合いが増えた」「先生や学校を身近に感じるようになった」の2つの項目において因子負荷量が低かった。そこで、それら2項目を除き再度因子分析（主因子法・プロ



表4 PTA 役員経験後の引き受けたくない理由（主因子法・プロマックス回転）

	因子負荷量		共通性
	I	II	
<b>個人的な理由</b>			
PTA 活動が自分の健康維持や病気の治療に支障をきたす	<b>.917</b>	-.118	.726
PTA 活動が家族の介護に支障をきたす	<b>.883</b>	-.153	.642
家族の理解と協力が得られない	<b>.782</b>	-.048	.568
PTA 活動が子どもの世話に支障をきたす	<b>.645</b>	.205	.617
家族の用事や家族と過ごす時間に支障をきたす	<b>.572</b>	.321	.651
他の親や先生たちとうまくやっていくのが大変	<b>.528</b>	.219	.466
<b>時間的理由</b>			
拘束される時間が長い	-.123	<b>.952</b>	.781
学校に行く回数が多い	-.126	<b>.908</b>	.704
活動や活動時間に予定を合わせるのが難しい	.090	<b>.739</b>	.634
活動の進め方が効率的でない	.023	<b>.722</b>	.541
PTA の活動内容に疑問を持つ	.288	<b>.546</b>	.570
	因子相関	I II	— —
		I	—
		II	.599

マックス回転)を行ったところ、4つの因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「PTA 役員の心得取得」「学校の情報通」「自身の成長」「負の変化」と命名した(表5参照)。

PTA 役員の任期満了後にやりたかったことについては、「小学校もしくは中学校でもう一度 PTA 役員」「習い事」などの8項目について、因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行ったところ、2つの因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「自己の充実」「社会活動への従事」と命名した(表6参照)。

小学校と PTA が実際にどのような関係であるかについては、「校長先生や副校長先生は PTA の意見を汲みあげる努力をする」「副校長先生や学校の言い分には逆らえない」などの7項目について、因子分析(主因子法・バリマックス回転)を行ったところ、2つの因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「対等な関係」「上下関係」と命名した(表7参照)。

表5 役員経験による自身の変化（主因子法・プロマックス回転）

	因子負荷量				共通性
	I	II	III	IV	
PTA 役員の心得取得					
授業参観に行くようになった	<b>.878</b>	-.036	-.053	.029	.673
学級懇談会に出席するようになった	<b>.873</b>	-.016	-.104	-.088	.645
PTA からの配布物を熟読するようになった	<b>.758</b>	-.008	-.088	-.013	.486
学校の授業内容に関心を持つようになった	<b>.604</b>	.186	.067	-.091	.632
PTA 総会に出席するようになった	<b>.565</b>	.080	-.049	.058	.351
身だしなみに気をつけるようになった	<b>.563</b>	-.106	.203	.073	.424
PTA 主催の研修会・講演会に参加するようになった	<b>.542</b>	.068	.055	.021	.397
廃品回収、美化活動などに協力するようになった	<b>.517</b>	.028	.092	-.071	.336
スケジュール帳を使うようになった	<b>.502</b>	-.101	.241	.113	.402
教職員の人事異動に関心を持つようになった	<b>.454</b>	.278	-.015	.066	.447
地域の行事に進んで参加するようになった	<b>.420</b>	.054	.267	-.055	.447
学校の情報通					
学校での自分の子どもの様子がわかるようになった	.011	<b>.734</b>	-.149	-.020	.435
子供と学校についてよく話すようになった	.096	<b>.668</b>	.004	.005	.547
夫と学校や教育について話すことが多くなった	-.192	<b>.594</b>	.312	.013	.484
地域の事情（地名や場所）に詳しくなった	-.022	<b>.580</b>	.134	.012	.432
担任の先生と接触する機会が増えた	.065	<b>.578</b>	-.045	.012	.355
校長先生・副校長先生と話す機会を持てた	.127	<b>.575</b>	-.116	.044	.358
顔と名前がわかるお子さんが増えた	-.014	<b>.573</b>	.021	-.011	.332
自身の成長					
自分の能力の（再）発見をした	-.059	-.094	<b>.769</b>	-.025	.456
本や新聞をよく読むようになった	.029	.018	<b>.668</b>	.004	.490
子どもの世話をやたらと焼かなくなった	.089	-.070	<b>.620</b>	.072	.426
人前で話しをする時に緊張しなくなった	.045	.104	<b>.540</b>	-.076	.406
人の意見をよく聞くようになった	.171	.179	<b>.465</b>	-.014	.527
負の変化					
学校と距離を置きたいと思うようになった	-.020	-.035	.031	<b>.867</b>	.759
他の保護者と関わるのが億劫になった	-.005	.094	-.138	<b>.841</b>	.688
人間不信になった	.032	-.030	.105	<b>.749</b>	.596
	I	—	.682	.666	.001
	II	—	.624	.023	
	III		—	.149	
	IV			—	

小学校と PTA との理想的な関係については、「PTA は学校からお願いされたお手伝いを忠実に行うべき」「PTA は学校に教育環境の改善について意見を述べるべき」などの 10 項目について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、3 つの因子が抽出された。それぞれの因子に負

表6 PTA 役員終了後にやりたかったこと（主因子法・バリマックス回転）

	因子負荷量		共通性
	I	II	
自己の充実			
習い事	<b>.740</b>	.293	.633
スポーツ	<b>.713</b>	.270	.581
資格取得・技能のスキルアップ	<b>.638</b>	.312	.504
仕事	<b>.571</b>	-.081	.332
家族と過ごす	<b>.549</b>	-.050	.304
社会活動への従事			
自治体が募集する審議会などの委員	.040	<b>.846</b>	.716
地域住民が参加する学校支援活動への参加	.192	<b>.721</b>	.557
小学校もしくは中学校でもう一度 PTA 役員	.045	<b>.594</b>	.355
固有値	2.129	1.853	
寄与率 (%)	26.62	23.16	

表7 小学校と PTA の現実の関係（主因子法・バリマックス回転）

	因子負荷量		共通性
	I	II	
対等な関係			
校長先生や副校長先生は PTA を学校側と対等に扱ってくれる	<b>.929</b>	-.140	.882
校長先生や副校長先生は PTA の意見を汲みあげる努力をする	<b>.858</b>	-.048	.738
教職員は PTA の一員として一緒に活動する	<b>.672</b>	.035	.453
上下関係			
学校側に PTA の意見を言いにくい	-.224	<b>.713</b>	.558
学校は施設整備や教育環境整備のための費用負担を PTA に要求する	.033	<b>.703</b>	.495
PTA 予算の使途に学校の要望が反映される	.210	<b>.662</b>	.483
副校長先生や学校の言い分には逆らえない	-.166	<b>.593</b>	.379
固有値	2.172	1.815	
寄与率 (%)	31.03	25.93	

荷量の高い項目を考慮し、第1因子から順に「対等な関係」「上下関係」「下僕関係」と命名した（表8参照）。

「PTA 会長」「PTA 書記」「校内パトロール」などの PTA の役職や活動を

表8 小学校とPTAの理想的な関係（主因子法・プロマックス回転）

	因子負荷量			共通性
	I	II	III	
<b>対等な関係</b>				
PTAは教育環境の改善について意見を述べるべき	<b>.888</b>	-.012	.005	.785
PTAと学校は教育環境改善のために話し合いの場を持つべき	<b>.884</b>	-.038	.004	.765
PTAの意見を学校は尊重すべき	<b>.515</b>	.133	-.009	.316
<b>上下関係</b>				
PTAは教育環境改善・向上のための費用を一部負担すべき	.019	<b>.624</b>	-.051	.365
PTAは教育環境改善・向上のために学校に無償で労力を提供すべき	-.095	<b>.475</b>	.273	.410
学校はPTAを学校から独立した存在とみなすべき	.014	<b>.473</b>	-.135	.177
PTAは会員の個人情報を学校と共有すべき	.061	<b>.465</b>	.078	.283
PTAは学校から家庭教育について教えてもらうべき	.255	<b>.403</b>	.043	.311
<b>下僕関係</b>				
PTAは学校からお願いされたお手伝いを忠実に行うべき	.077	-.174	<b>.920</b>	.741
PTAは学校からお手伝いをお願いされたときは、頼まれた以上のことを行うべき	-.113	.240	<b>.469</b>	.368
	I	—	.274	.267
因子相関	II	—	.537	
	III		—	

担うのは母親と父親のどちらがふさわしいかを尋ねた回答について、因子分析（主因子法・プロマックス回転）を行ったところ、2つの因子が抽出された。それぞれの因子に負荷量の高い役職・活動を考慮し、第1因子を「母親の役職・活動」、第2因子を「父親の役職・活動」と命名した（表9参照）。

「PTA活動は母親が担うべき」「PTAの存在・活動は子供の健やかな成長に役立つ」などのPTA活動に対する意見5項目について因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行ったところ、「PTA活動は母親が担うべき」という項目はどの因子にも負荷量が低かった。そこで、この項目を除き再度因子分析（主因子法・バリマックス回転）を行ったところ、2因子が抽出された。それぞれの因子の負荷量の高い項目を考慮し、第1因子を「消極的意見」、第2因子を「積極的意見」と命名した（表10参照）。

表9 役職にふさわしい性別（主因子法・プロマックス回転）

	因子負荷量		共通性
	I	II	
母親の役職・活動			
PTA 書記	<b>.878</b>	-.132	.754
PTA 会計	<b>.873</b>	-.134	.746
教養講座の準備	<b>.819</b>	-.035	.664
クラス懇談会の開催	<b>.808</b>	-.035	.647
広報活動	<b>.802</b>	.038	.654
ベルマーク回収・集計	<b>.770</b>	-.054	.584
各部会・委員会の部長・委員長	<b>.751</b>	.019	.569
校内美化活動	<b>.663</b>	.094	.467
会計監査	<b>.642</b>	.058	.427
PTA 協議会・PTA 連絡協議会への出席	<b>.510</b>	.266	.372
PTA 副会長	<b>.372</b>	.117	.165
父親の役職・活動			
校外パトロール	.009	<b>.705</b>	.398
校内パトロール	.352	<b>.474</b>	.499
PTA 会長	-.291	<b>.358</b>	.182
	因子相関	I II	— .148 —

表10 PTA 活動に対する意見（主因子法・バリマックス回転）

	因子負荷量		共通性
	I	II	
消極的意見			
やりたい人だけがやるべき	<b>.918</b>	-.162	.869
加入しい人だけが加入すべき	<b>.888</b>	-.143	.810
積極的意見			
子供の健やかな成長に役立つ	-.335	<b>.658</b>	.546
地域住民と協力して行うべき	-.010	<b>.620</b>	.384
固有値	1.744	0.864	
寄与率 (%)	43.60	21.61	

## 2. クラスタ分析による調査協力者の特徴分析

役割割観、PTA 役員を引き受けた理由の各因子、退会意図（いずれも数値

表 11 クラスタ別にみた職業と退会意図の有無 単位：人数

	第1 クラスタ (n=134)	第2 クラスタ (n=123)	第3 クラスタ (n=54)	第4 クラスタ 4 (n=71)	第5 クラスタ (n=68)
職業					
正規・自営	25	24	9	7	12
非正規他	47	49	20	24	21
無職	62	50	25	40	35
退会意図					
有	0	123	19	0	0
無	134	0	35	71	68

を標準化した)を用いて、階層的クラスタ分析(ward法)を行い、調査協力を5つのクラスタに分類した。それぞれのクラスタの雇用形態、退会意図の有無についてみてみる。性役割観については後述する。まず、雇用形態とクラスタの間には有意な関連性は認められず( $\chi^2(8)=6.618, n.s.$ )、雇用形態によりPTAに対する態度や関わり方に違いはないといえる。一方、退会意図の有無はクラスタによって大きく異なり、第2クラスタは全員「PTAを退会したい」と思ったことがある人であるが、第1クラスタ、第4クラスタ、第5クラスタには「PTAを退会したい」と思ったことのある人はいなかった。

次に、クラスタを独立変数、性役割観、PTA役員を引き受けた理由の各因子、PTAの活動の必要性の各因子などを従属変数として分散分析を行い、クラスタ間の差異を明らかにした(表12参照)。表12に示されているように、全ての変数においてクラスタ間には有意な差が認められた。そこで、そうした差異と表13に示されている今後のPTA活動のあり方についての考えから、各クラスタの特徴を読み取り各クラスタを命名する。

まず第1クラスタに分類された134名の「今後のPTA活動のあり方」に対する考え方は「このまま存続すべき」(35名、26.1%)、「活動内容を検討すべき」(40名、29.9%)、「活動の進め方を検討すべき」(40名、29.9%)に三分されていた(表13参照)。また、PTA役員就任前と就任後の「役員を引き受けたくない理由」の因子得点を見る限り、PTA役員を引き受けるこ

表 12 各変数のクラスター別平均値と分散分析の結果

変数	第1クラスター	第2クラスター	第3クラスター	第4クラスター	第5クラスター	F値	多重比較結果
性役割観	52.10 <sup>b</sup>	52.42 <sup>b</sup>	48.04 <sup>c</sup>	53.34 <sup>b</sup>	55.82 <sup>a</sup>	6.356***	a>b>c
役員を引き受けた理由							
情報入手目的	0.509 <sup>a</sup>	-0.378 <sup>c</sup>	0.125 <sup>b</sup>	0.660 <sup>a</sup>	-1.107 <sup>d</sup>	81.527***	a>b>d>d
自己充実目的	-0.481 <sup>c</sup>	-0.307 <sup>c</sup>	1.336 <sup>a</sup>	0.888 <sup>b</sup>	-0.486 <sup>c</sup>	156.124***	a>b>c
消極的理由	0.142 <sup>c</sup>	0.073 <sup>b</sup>	1.276 <sup>a</sup>	-0.531 <sup>d</sup>	-0.311 <sup>c</sup>	80.113***	a>b>c>d>e
PTAの活動の必要性							
資金労働力提供	0.193 <sup>c</sup>	-0.557 <sup>d</sup>	0.401 <sup>a</sup>	0.460 <sup>a</sup>	-0.173 <sup>b</sup>	23.223***	a>b, c>d
基幹業務	0.146 <sup>b</sup>	-0.432 <sup>d</sup>	-0.233 <sup>d</sup>	0.439 <sup>a</sup>	0.222 <sup>c</sup>	13.457***	a>b>d,c>d
対外活動・成人会員啓蒙	0.176 <sup>c</sup>	-0.491 <sup>c</sup>	0.241 <sup>b</sup>	0.540 <sup>a</sup>	-0.213 <sup>d</sup>	19.599***	ab>de, a>c>e
安全活動	0.131 <sup>a</sup>	-0.423 <sup>b</sup>	0.209 <sup>a</sup>	0.367 <sup>a</sup>	-0.043	10.932***	a>b
引き受けたくない理由(就任前)							
時間的理由	-0.319 <sup>c</sup>	0.579 <sup>a</sup>	0.098 <sup>b</sup>	-0.282 <sup>c</sup>	-0.197 <sup>d</sup>	20.618***	a>b>c, a>d
個人的な理由	-0.326 <sup>b</sup>	0.473 <sup>a</sup>	0.400 <sup>a</sup>	-0.224 <sup>b</sup>	-0.297 <sup>b</sup>	19.916***	a>b
対人的な理由	-0.291 <sup>b</sup>	0.497 <sup>a</sup>	0.150 <sup>a</sup>	-0.263 <sup>b</sup>	-0.170 <sup>c</sup>	17.975***	a>cd, b>c
引き受けたくない理由(就任後)							
個人的な理由	-0.386 <sup>b</sup>	0.522 <sup>a</sup>	0.537 <sup>a</sup>	-0.350 <sup>b</sup>	-0.244 <sup>b</sup>	27.914***	a>b
時間的理由	-0.314 <sup>d</sup>	0.643 <sup>a</sup>	0.127 <sup>b</sup>	-0.359 <sup>d</sup>	-0.270 <sup>c</sup>	26.415***	a>b>d, a>c
役員経験による自身の変化							
PTA 役員の心得取得	-0.096 <sup>b</sup>	0.395 <sup>a</sup>	-0.319 <sup>c</sup>	-0.625 <sup>d</sup>	0.422 <sup>a</sup>	20.922***	a>b>d, a>c
学校の情報通	-0.140 <sup>c</sup>	0.324 <sup>b</sup>	-0.133 <sup>d</sup>	-0.608 <sup>c</sup>	0.485 <sup>a</sup>	19.259***	ab>c>e, a>d>e
自身の成長	0.021 <sup>b</sup>	0.316 <sup>a</sup>	-0.433 <sup>c</sup>	-0.614 <sup>d</sup>	0.433 <sup>a</sup>	21.295***	a>b>d, a>c
負の変化	0.207 <sup>c</sup>	-0.549 <sup>c</sup>	-0.170 <sup>d</sup>	0.411 <sup>a</sup>	0.278 <sup>b</sup>	19.887***	a>c>e, a>d, b>e
役員終了後にやりたかったこと							
自己の充実	-0.058 <sup>b</sup>	0.094 <sup>c</sup>	-0.119 <sup>b</sup>	0.351 <sup>a</sup>	-0.327 <sup>d</sup>	6.019***	a>bd, c>d
社会活動への従事	0.078 <sup>b</sup>	-0.437 <sup>c</sup>	0.545 <sup>a</sup>	0.566 <sup>a</sup>	-0.387 <sup>c</sup>	28.146***	a>b>c
小学校とPTAの関係(現実)							
対等な関係	0.074 <sup>b</sup>	-0.338 <sup>c</sup>	-0.08 <sup>d</sup>	0.493 <sup>a</sup>	0.013 <sup>d</sup>	9.351***	ab>c, a>d
上下関係	-0.092	0.185 <sup>a</sup>	0.234	-0.133	-0.201 <sup>b</sup>	4.033***	a>b
小学校とPTAの関係(理想)							
対等な関係	0.110	-0.104 <sup>b</sup>	-0.207 <sup>b</sup>	0.251 <sup>a</sup>	-0.128	3.146*	a>b
上下関係	0.064 <sup>b</sup>	-0.250 <sup>c</sup>	0.541 <sup>a</sup>	0.097 <sup>b</sup>	-0.205 <sup>d</sup>	10.762***	a>b>c, a>d
下僕関係	0.065 <sup>a</sup>	-0.363 <sup>b</sup>	0.318 <sup>a</sup>	0.142 <sup>a</sup>	0.127 <sup>a</sup>	8.276***	a>b
役職にふさわしい性別							
母親の役職・活動	0.055 <sup>a</sup>	-0.303 <sup>b</sup>	0.212 <sup>a</sup>	0.332 <sup>a</sup>	-0.076	6.182***	a>b
父親の役職・活動	-0.001	-0.121 <sup>b</sup>	0.329	-0.120 <sup>b</sup>	0.085	3.625**	a>b
PTA活動に対する意見							
消極的意見	-0.278 <sup>c</sup>	0.420 <sup>a</sup>	0.227 <sup>b</sup>	-0.313 <sup>c</sup>	-0.065 <sup>d</sup>	12.939***	ab>c, a>d
積極的意見	0.164 <sup>c</sup>	-0.409 <sup>d</sup>	-0.024 <sup>b</sup>	0.384 <sup>a</sup>	0.034 <sup>b</sup>	16.808***	a>b>d, c>d
PTA活動は母親が担うべき	1.948 <sup>c</sup>	1.870 <sup>d</sup>	2.704 <sup>a</sup>	2.268 <sup>b</sup>	2.000 <sup>c</sup>	8.566***	a>cd, b>d

\*p<.05, \*\*p<.01, \*\*\*p<.001.

表 13 今後の PTA 活動のありかたに対する考え 単位：人（％）

	このまま 存続すべき	活動内容を 検討すべき	活動の進め方 を検討すべき	全て なくすべき	わからない、 考えたこと がない
第1クラス	35 (26.1%)	40 (29.9%)	40 (29.9%)	0 (0%)	19 (14.2%)
第2クラス	5 (4.1%)	31 (25.2%)	57 (46.3%)	25 (20.3%)	5 (4.1%)
第3クラス	13 (24.1%)	21 (38.9%)	12 (22.2%)	4 (7.4%)	4 (7.4%)
第4クラス	27 (38.0%)	26 (36.6%)	17 (23.9%)	0 (0%)	1 (1.4%)
第5クラス	27 (39.7%)	19 (27.9%)	8 (11.8%)	3 (4.4%)	11 (16.2%)

とを拒否しているとはいえない。むしろ、学校での子どもの様子などを知りたいがために PTA 役員を引き受けた人たちといえる。学校との関係については、教員と保護者との対等な関係に魅力を感じているものの、学校や子どもたちのために下働きをすることを厭わない人たちでもある。以上のような特徴から、このクラスに分類された人たちを「子どものために活動する母親」と命名する。

第2クラスには123名が分類され、前述のように全員が「PTAを退会したい」と思ったことがある。「今後の PTA 活動のあり方」については、「全てなくすべき」（25名、20.3%）という意見の占める割合が他のクラスよりも大きく、「このまま存続すべき」（5名、4.1%）はごくわずかであり、PTAについても「やりたい人だけがやるべき」といった消極的意見が強かった。以上のことから分かるように、このクラスの人たちは、PTAに対し非常に否定的な態度を持っている人たちであり、「PTAに批判的な母親」と呼ぶことができよう。また、役員就任前か就任後に関わらず、「役員を引き受けたくない理由」の全ての因子において得点が高く、役員を引き受けた理由は「消極的な理由」からであった。しかし、PTA役員を経験したことで、役員の心得を習得し、学校の事情に詳しくなり自分も成長できたと感じているのである。「役員終了後にやりたかったこと」「小学校と PTA の理想的な関係」においては、高い値を示しているものがないことから、このクラスの人たちが PTA の活動に批判的なのは、仕事や介護など様々な事情に



より PTA 活動に積極的に参加する、あるいは時間の都合をつけて参加することが難しい人たちである可能性が高い。

第3クラスタに分類された54名は、性役割観が最も伝統的な人たちであった。PTA活動を担うのは母親であるという考えが最も強く、母親と父親にふさわしい役職・活動を最も明確に区別していた。PTA活動の内容に疑問を抱いている人が多いが、現行のさまざまなPTAの活動の中でも「資金・労働力提供」を最も必要であると考えている。役員を引き受けたくない理由については、個人的理由や対人的理由で得点が高く、仕方なく役員を引き受けた。しかし、「自己充実」のために役員を引き受けることが他のクラスタよりも多く、学校との関係は上下関係や下僕関係でよいと考えている。PTA活動を通して得られたことは少ないが、PTA活動のような社会活動に従事することを好む。伝統的な性役割観を持つが故にPTA活動の実質的な担い手は女性であるべきと考えているものの、自ら積極的に意見を述べることはなく指示に従って活動をしていると推察される。以上より、第3クラスタを「控え目な母親」と命名する。

第4クラスタに分類された71名の性役割観は中庸であるが、彼女たちはPTA活動に非常に熱心であり、あらゆる役職・活動を母親が担うべきであると考えている。役員を引き受けたくない理由は特になく、学校の情報入手し自己充実を図るためにPTA役員を引き受けた。学校との関係は対等であるべきと考え、実際そのような関係を教員たちとの間に築いてきた。その一方で、下働きによって先生たちを支えることも必要だと考えている。PTA役員を経験する以前より、学校の情報やPTA役員の心得に精通していたためか、役員経験による自己の変化も自己の充実も認められず、むしろ「学校と距離を置きたい」と思うなど負の変化がみられた。それでもPTA役員などの社会活動に常に励みたいと思っており、また習い事やスポーツなどいろいろなことに挑戦し自己充実を図りたいと考えている。以上のような特徴から、第4クラスタを「社会活動好きな母親」と命名する。

第5クラスタに分類されたのは68名で、最も進歩的な性役割観を持ち、

PTA 活動は母親が担うべきという考えに対する賛成度は高くない。また、PTA 役員を引き受けたくない特段の理由があったわけでもないが、役員を積極的に引き受けたわけでも何等かの目的があって引き受けたわけでもない。成り行きで役員を引き受けたと思われる。PTA の活動としては総会運営、広報誌の発行、学校の手伝いなどの組織の基幹業務を重視しており、現在の PTA 活動を「このまま存続すべき」と考えている。このクラスタの人たちは PTA 活動を通して、役員としての心得を取得し、学校の情報に精通し、自身も大きな成長を遂げていた。学校との関係については、PTA は学校の下働きをすればよいと考えており、あくまでも教師と児童が主役でそのための手伝いを父親と母親がするコンパクトな PTA 活動を望んでいるのではないだろうか。以上の特徴から、第 5 クラスタを「合理的な母親」と命名する。

## 考察

本稿の目的は、PTA 活動における母親たちの多様性を示すことであった。PTA 役員を引き受けた理由、PTA の退会意図、性役割観によってクラスタ分析を行い、調査協力者たちの類型化を試みたところ、「子どものために活動する母親」「PTA に批判的な母親」「控え目な母親」「社会活動好きな母親」「合理的な母親」の 5 つのタイプに調査協力者たちを分類することができた。さらに、役員を引き受けたくない理由、PTA がやるべき活動、PTA 活動を通しての自己の変化などについて、これらの 5 つのタイプに差があるかを検討したところ、就労状況を除く全ての変数において差が認められた。したがって、今日の母親たちは就労状況とは関係なく、PTA 活動に対する考え方や関わり方が多様化しているといえよう。5 つのタイプの差から読み取れることを考察し、今後の PTA 活動のあり方や母親たちがどのように PTA 活動に参加すればよいかを述べる。

## PTA 役員のなり手が少ない理由

「社会活動好きな母親」以外の人たちは、PTA 役員を仕方なく引き受けていたことから、多くの人たちにとって PTA 活動は自ら進んでやるものではないと考えられていることがわかる。その最大の理由は「時間」の問題であり、活動の進め方に問題があると考えられていることが「今後の PTA 活動に対する意見」から読み取れた。また、「PTA がやるべき活動」については、広報誌の発行や総会運営などの「基幹業務」は共通して必要と考えられているが、その他の活動についてはクラスタによって意見が異なる。意見が分かれる活動については、各 PTA は学校と共に見直し、優先順位をつけることが必要ではないか。また、何のために必要であるのか、どのような教育効果があるのかなどを学校と PTA 執行部は母親たちに説明する必要がある。

## PTA 活動による母親自身の変化

PTA 活動を通して、役員としての心得を取得すること、学校の情報を得ること、自分自身が成長することなどは母親自身の正の変化である。こうした変化は、PTA に対して非常に否定的な考えを持つ「PTA に批判的な母親」と PTA 活動にあまり関心を持っていない「合理的な母親」において顕著であった。これらのタイプの母親は、そもそも PTA の役員を引き受けるに際し何ら見返りも期待していなかった。つまり、学校の情報を入手したいという気持ちや自分自身が成長したいという動機を持っていなかったのである。むしろ「PTA に批判的な母親」は様々な理由で PTA 役員を引き受けたくない気持ちが非常に強かった。それにもかかわらず、PTA 活動を通して多くのことを吸収し内面的な成長を遂げたのである。この結果は、中山（2015）と一致している。つまり、PTA 役員を引き受けることに多大な負担を感じている場合、活動から得られる満足感は大きいのである。

ただし、「合理的な母親」の PTA 役員を引き受けたくない理由の得点は、他のタイプの人たちのものよりも低かったことから、「合理的な母親」の活動に従事することに対する負担感は小さかったと推察される。一方、「社会

活動好きの母親」は、PTA 役員を積極的に引き受け、あらゆる活動を PTA、とりわけ母親がやるべきと考え、PTA 活動に参加することで学校の情報を得ることや自己充実を図ることを目指していた。しかし、活動後において「社会活動好きの母親」たちは学校と距離を置きたいと思うようになるなど負の変化が大きく、正の変化はむしろ見られなかった。

以上のことから、PTA 活動に対して感じる過度の負担は一部の母親たちにとっては、PTA 活動に対する満足をもたらすといえる。それ以上に、PTA 活動によって母親たちが満足感を得るのは、活動に対する初期期待値が低いことなのではないだろうか。

### PTA と学校の関係はどうあるべきか

GHQ の指導により、戦後の PTA には、学校の教育効果や地域社会への波及効果を高めるために、保護者と教員が対等な立場で学ぶことが求められていた。しかし、PTA 活動に参加する多くの母親たちは、学校と保護者 PTA が対等である必要はないと考えている。むしろ学校の下働きをすることが理想であると考えられているのである。つまり、日本において母親たちは、学校のために、学校の言う通りに動く PTA の活動を担うことを由としているのである。この考え方は性役割観による差がないことから、こうした PTA 活動のあり方が暗黙の了解、すなわち一種の学校文化として、母親たちに受け入れられている可能性が高い。

一方、学校とは対等であるべきだと強く考える母親たちがいる。「社会活動好きの母親たち」である。彼女たちのそうした考えは他の大多数の母親たちのものとは相容れない。また、こうしたことが学校との軋轢をもたらしているかどうかは定かではないが、PTA 活動に対するやる気、すなわち内発的動機付けが高いにも関わらず、彼女たちの活動従事後の満足度は低い。本来あるべき保護者と学校との関係を理想とし、活動に参加することが負の結果をもたらしていると考えられる。

## PTA 活動に消極的であることをどう捉えるか

ここまでの考察から、PTA 活動に積極的であるよりも消極的である方が PTA 活動への適応に問題がなく、むしろ役員終了後の満足感が高いといえる。これは日本の PTA に受け継がれている母親文化が消極的な態度を求めていること、あるいは PTA の活動へ参加する際には消極的な態度を持っている方が積極的な態度を持っているよりも周囲との軋轢やストレスに曝されることが少ないことを意味しているのではないか。また、多くの母親たちは学校の下働きをすることに疑問を感じていない。しかし、彼女たちの多くは再度 PTA 役員を引き受けたいとは思っていない。PTA 役員や地域の社会的活動に参加することを望んでいるのは、PTA 活動における母親文化から逸脱している PTA 活動に積極的な母親たちである。

そもそも戦後 PTA は、保護者と教員が対等な立場で学ぶこと、それによって教育現場のみならず地域社会における子育てを効果的なものにするを旨として設立された。この理想を追求していると考えられる PTA 活動に積極的な人たちが、PTA 活動を通してストレスを抱えている実態を見逃すべきではないと思われる。彼女たちは、学校における PTA 活動の教育効果、地域社会における子育ての効果が高める際に中心的な役割を果たす人たちであると思われるからである。母親たちが教師たちの下働きをすることに疑問を抱いていない以上、母親たちに PTA に見受けられるこうした規範を改めることを期待することはできない。PTA 活動の学校における教育効果と地域活動の活性化を高めるためには、教師たちが PTA 活動の内容や母親たちとの関係を見直し、母親たちに働きかけることが必要なのではないか。

## 本研究の意義と今後の展望

本研究は、PTA 活動に対して消極的な母親たちが主流となっているものの、その考え方や PTA 活動への関わり方はバラエティに富んでいることを示すことができた。また、消極的な母親たちは PTA 活動から学ぶことが多く、積極的な母親たちはむしろストレスを感じていることを明らかにした。

PTA における消極的な態度は、母親たちに共有されている PTA 規範である可能性が高く、それが役員選出時における困難さをもたらし、PTA と学校との対等な関係を阻んでいる可能性は高い。

今後の研究では、母親たちに共有されている PTA 活動の規範、その重要性、教師が PTA 活動に何を期待しているのかなどを明らかにし、家庭・学校・地域の連携による子育てを充実させるための方策を考えていきたい。

### 参考文献

- Arima, A., Shimojima, Y., & Takeshita, M. (2016). What does PTA (Parent-Teacher Association) mean for Women?: The involvement types in PTA activities, *The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology*.
- 有馬明恵・下島裕美・竹下美穂 (2015). PTA 役員未経験者の意識調査 (1)—母親と父親の比較— 日本社会心理学会第 56 回大会ポスター発表.
- 天野かおり (2001). PTA の成立: 母親教育から親と教師の協力へ 広島大学大学院教育学研究科紀要, **50**, 101-107.
- 藤田秀雄 (1984). 日本における PTA の歴史 (その一) 立正大学文学部論叢, **78**, 59-86.
- 星野 豊 (2016). PTA の法的地位 (1) 筑波法政, **66**, 1-10.
- 石田貴子 (2015). 被災地の小学校における PTA 読み聞かせクラブの活動に関する考察 大阪成蹊大学紀要, **01**, 214-220.
- 中山満子 (2016). PTA 活動経験が向社会活動への参加意向に及ぼす影響 対人社会心理学研究, **16**, 41-46.
- 下島裕美・有馬明恵・竹下美穂 (2015). PTA 役員未経験者の意識調査 (2)—PTA 肯定派と否定派の比較— 日本社会心理学会第 56 回大会ポスター発表.
- 杉村房彦 (1968). PTA と成人教育 (I) 鹿児島大学教育学部紀要, **20**, 26-49.
- 住田正樹・藤井美保 (2000). PTA 活動に関する父母の意識: 役員層と一般会員を比較して 日本教育学会大会発表要項, **59**, 176-177.
- 竹尾和子・戸田有一 (2015). PTA の現状と課題をどのように『可視化』するか—文化、ジェンダー、道徳性— 日本心理学会第 79 回大会シンポジウム.
- 竹尾和子・神野 潔 (2016). PTA の現状に関する学際的可視化の試み—教育心理学・法学・歴史学の視点から— 東京理科大学紀要 (教養編), **48**, 35-52.
- Takeo, K. & Omi, Y. (2016). Structures and issues of PTA in socio-cultural context in democratic countries of Japan, USA, and UK, *The 31<sup>st</sup> International Congress of Psychology, Contributed Symposium*.

キーワード

PTA 活動、PTA と学校の関係、役員を引き受けた理由、下働き、規範